



生活文化



塩野門之助

88

まいん

ひぐらしべってい 日暮別邸



日暮別邸

この建物が位置する丘陵一帯を日暮と言います。日暮という地名は、四阪島の製錬所設計・建設に携わった塩野門之助が、この付近から島一帯を見渡しながらか、日が暮れるまで新工場の構想を練っていたところから由来しています。

ひぐらしべってい 日暮別邸

は、明治39年(1906)5月、住友の別荘、来客用として建設されました。費用は14,083円でした。この敷地選定は、住友家15代家長の住友吉左衛門友純が自ら行ったと言われてています。

出逢いから始まる

未来への架橋

かけはし



建設当時の様子
明治39年撮影
別子銅山記念館所蔵



リビングの様子

吹き抜けの階段を上がると、洋風の寝室が2室あり、ここにも暖炉が設置されています。

玄関右側は別棟となり、8畳と10畳の和室が設けられていました。

日暮別邸の設計は野口孫市(重要文化財となっている大阪府立中之島図書館の設計者)によるものです。

建物は2階構造になっており、外観は洋風のデザインで、外壁に特大のカラミレンガが使用されています。内部は、19世紀末に欧米で流行していたアール・ヌーボーなどのデザインが取り入れられ、室内に置かれた机や椅子などの家具類も同じ趣向を持ったデザインとなっています。リビングには暖炉も設置されています。



丁寧に造り込まれたビリヤード台



2階寝室の様子

地下に下りると、ビリヤード台も設置されています。

ここは賓客が静かに憩うためにふさわしい豊かな空間となっています。

